

岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

平成28年4月4日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ おかやましきょうやまちくい一えすでいすいしんきょうざいかい
 団体名 岡山市京山地区ESD推進協議会
 所在地 [Redacted]
 連絡先 [Redacted]
 フリガナ いけだ みつゆき
 代表者氏名 池田 満之 [Redacted]

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください) <input checked="" type="radio"/> ア 地域課題解決 <input type="radio"/> イ 地域課題掘り起し <input type="radio"/> ウ 地域計画づくり <input type="radio"/> エ 地域課題解決型の地域組織づくり <input type="radio"/> オ その他
事業名	「やさしく走ろう京山」運動の推進
事業実施区域 (小学校区)	伊島小学校区、津島小学校区
事業 実 施 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して「やさしく走ろう京山」運動の周知・普及活動、啓発プレート「やさしく走ろう京山」の配布やのぼり旗の設置を行った。 ・「京山地区地域安全パトロール隊」で、参加団体（地区内にある公立・私立の保育園（伊島）、幼稚園（伊島・つしま）、小学校（伊島・津島、ノートルダム清心）、中学校（京山）、高等学校（岡山工業、明誠学院、烏城高校）、大学（岡山大学、岡山商科大学）の各教育機関、伊島学区・津島学区の交通安全対策協議会、安全安心ネットワーク、連合町内会、コミュニティ協議会、交通安全母の会等の団体に対し進行状況の報告、協議、運動への協力依頼を行ってきた。また、これらの団体と協力して交通安全街頭行動、自転車マナー教室を共催した。 ・啓発プレート「やさしく走ろう京山」の配布は、「自転車の初心者マーク」的な意味合いを重視し、まずは“老人クラブ”“フレンドリー京山”“京山公民館利用の高齢者”を優先し、配布していった。さらに、岡山市立京山中学校では1年生全員になどにも配布した。 ・岡山工業高等学校、京山中学校、岡山大学、岡山大学サークル「ティーチイン」との懇談を行い、「地域の願い」を届けるとともに「やさしく走ろう京山」運動の協力をお願いした。 ・「地域の絆プロジェクトだより」を発行し、「やさしく走ろう京山」運動の啓発を促した。この運動は山陽新聞や岡山市の広報誌みんなのおかやまにも掲載され、地域へのアピールに役だった。 ・今年度の総まとめとして、第11回京山地区ESDフェスティバル「地域の絆プロジェクト」で「やさしく走ろう京山」運動の成果と課題、さらに危険箇所と用水路問題について論議を深めていった。

<p>事業目的とその達成状況と効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自転車マナー問題」の解決は岡山市京山地区の課題であり。2015年2月に開催した第10回京山地区ESDフェスティバル「地域の絆プロジェクト」の中で多数意見として「自転車マナー問題」に取り組む必要性が提言された。その論議を受けて、地域の絆プロジェクト企画委員会では「やさしく走ろう京山」運動を広げることとし、「自転車マナー問題」の解決を目指した。 ・運動の主体として「京山地区地域安全パトロール隊」参加の各団体に呼び掛け、「やさしく走ろう京山」運動企画委員会を結成しました。 ・この問題は、すぐに大きな成果をあげることができない。「やさしく走ろう京山」運動を広げることによって、歩行者、自転車運転者、車両運転者とも誰もが安心して通行できる地域になること期待して、運動を続けていくことが何よりも重要と考えている。「この運動はいい運動なので是非に続けていってもらいたい」との多くの声を聞いている。 ・のぼり旗の設置や1,200枚の啓発プレート「やさしく走ろう京山」が地域関係者の自転車に付けられことによって、人びとの意識は大いに向上した。 ・2016年1月31日に行われた、第11回京山地区ESDフェスティバル「地域の絆プロジェクト」で達成状況を報告し、成果と課題を話し合った。討論会への参加者は約80名。この中には中学生、大学生約20名、地域の若い世代の方約20名、地域の高齢の方30名、警察署、区役所、市役所の交通関係の担当の方8名が参加した。 ・当初、この啓発プレート「やさしく走ろう京山」は、自転車の後ろに付け、後ろから来る無謀な自転車に対して注意を促す目的だった。アンケートによると後ろから来る人が気を付けてくれていると感じた人が半数近くいた。それ以上に、70%以上の方が「自分の自転車マナーが向上した」と答えてくれた。残念ながら「変わらない」と答えたのは、全員中学生だった。この運動の副産物と考えられたのが、「このプレートを見ると京山地区の人だと思い、親しみを感じ、地域の連帯感を感じる」というものだった。さらに、「私たちの運動は京山学区だけに限られたものだが、この運動を広く他の学区に広げていく必要がある」「地域住民でないといけないこと、行政でないといけないことがあるので、その役割を話し合いながら、この運動を広げていく必要がある」という意見も強く出た。何より、運動の継続が第一と考える。
<p>企画などの工夫と情報公開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発プレート「やさしく走ろう京山」を制作し、各種会合で運動を推進していく地域の住民、生徒に配布する活動を行った。 ・保育園、幼稚園、小学校の保護者への働きかけを強め、通園、通学が安全にできる学区をめざす運動を広げた。 ・「地域の絆プロジェクトだより」を年間4回、京山学区の全戸に各町内会の協力を得て配布した。このだよりには、「やさしく走ろう京山」運動の目的、意義、願い、さらに、啓発プレート「やさしく走ろう京山」運動の記事を毎号掲載し宣伝した。 ・「京山地区ESDフェスティバルでの地域の絆プロジェクト」では、警察署、役所の担当部署の方をゲストに迎え、多くの方の参加を得て、この運動の成果と課題、来年度以降の運動の方向性や京山地区ESD協議会が掲げる【目指す地域像】を論議することができた。

<p>次年度計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「やさしく走ろう京山」運動を広げることによって、歩行者、自転車運転者、車両運転者、誰もが安心して通行できる地域になることを目指す。 ・啓発プレート「やさしく走ろう京山」の配布は次年度作成予定分を合わせると約1,700枚になる。このプレートが地域関係者の自転車に付けられることによって、地域の人びとの意識はますます向上し、自転車問題についての関心も高まっていくことが期待される。京山地区ひいては岡山市の地域課題の解決に向けて大きく進展することも期待される。 ・成果の確認は、京山地区ESDフェスティバルなどで、アンケートや話し合いを通して地域の方々に直接聞いて行う。 ・自転車のマナー問題を話し合っていくなかで、参加者の意識はどんどん向上していき、あらゆる角度から安全面についても話が及ぶようになった。そこで京山地区の自転車通行危険箇所、用水路問題などを京山地区ESDフェスティバルで話し合い、マップを作成していく方向に展開している。また今年度、啓発プレートと合わせて作成したのぼりに大きな効果があったので、次年度ものぼりやポスターを作成し、その危険箇所に設置することにより地域の皆さんに意識していただき、危険を回避する有効な手段にしていきたいと考えている。
<p>事業実施者としての評価・感想など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この運動は、ESD活動（京山地区発案の「えーものを子孫の代まで」）の中で「この京山地域の課題は何か」、その地域課題をどうしたら解決できるか、解決の方向に向かわせることができるかの論議の中で必然的に生まれてきたものである。 ・自転車マナー問題は持続可能な社会をめざすためには、どの地域にとっても共通の、そして将来にわたる課題である。その中で、どんな方法がよいのか、どうすればどのような効果が生まれるのか、そのための経費をどのように生み出していくのか。常に、試行錯誤を繰り返す運動だと考えている。 ・啓発プレート「やさしく走ろう京山」を自転車に付けていく運動は、自分を回りから守ってくれるとともに、自分自身の自転車マナー向上に役立つことが実証されたと感じている。 ・この運動へ、生徒・学生等の若年層の主体的な参加を促すということについては苦慮している。世代間交流を進めながら少しでもこの運動を前進させていきたいと考えている。 ・地域活動を行う場合に運動の主体となる団体に十分な財政的な裏付けがないことが多いのではないかと。私たち京山地区ESD推進協議会も財政的な余裕はない。今年度、補助金をいただいていたので、この啓発プレート「やさしく走ろう京山」の配布を中心とした運動は、労力の点、財政の点において精一杯の活動であったと思う。次年度は、いただける補助金も1/2に減額されるが、こうした補助率もその事業の内容に応じて、柔軟に調整、配慮されるようにしてもらえるとありがたい。

■収支決算書

◆収入

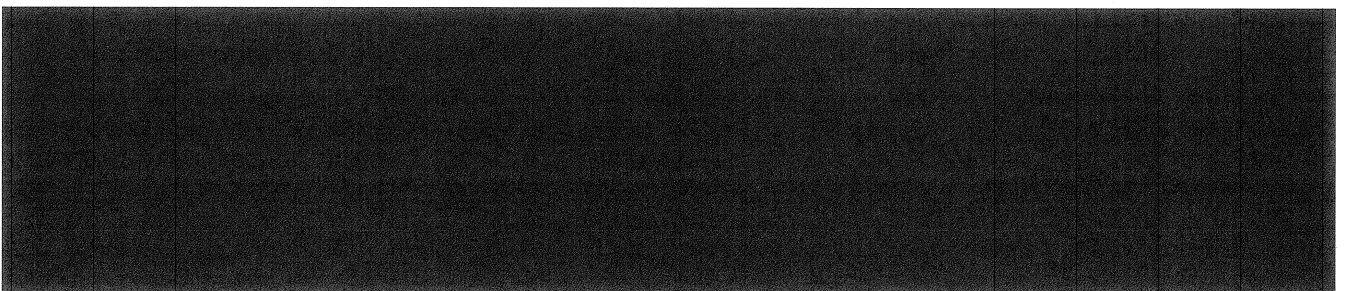
単位:円

項目	予算額	決算額	備考
岡山市補助金	280,000	280,000	
負担金	40,000	28,660	岡山市京山地区ESD推進協議会
協賛金	30,000	40,000	伊島学区交通安全対策協議会 20,000 津島学区交通安全対策協議会 20,000
寄付、他収入	40,000	20,000	岡山ヤクルト販売 10,000 欄チヂキ 10,000
計	390,000	368,660	

◆支出

単位:円

項目	予算額	決算額	内容 (必ず記載してください)
消耗品費	300,000	367,922	啓発プレート、のぼり、のぼり用 ポール、チラシ印刷用インクカー トリッジ、地域の絆だより用紙代
会議費	50,000	0	
印刷製本費	40,000	0	
通信運搬費		738	企画委員会案内状郵送切手代
手数料			
使用料			
原材料費			
委託料			
報償費			
旅費交通費			
計	390,000	368,660	



■事業実施にあたっての協働の状況

協働した団体・企業・大学等	協働した内容
伊島学区交通安全対策協議会	協賛者
津島学区交通安全対策協議会	協賛者
京山地区地域安全パトロール隊	協賛者
伊島学区連合町内会	協賛者
津島学区連合町内会	協賛者
伊島学区コミュニティー協議会	協賛者
津島学区コミュニティー協議会	協賛者
伊島学区交通安全母の会	協賛者
津島学区交通安全母の会	協賛者
伊島学区老人クラブ	協賛者
津島学区老人クラブ	協賛者
岡山市立京山中学校	懇談者
岡山県立岡山工業高校	懇談者
岡山大学	懇談者
岡山大学サークル ティーチン	懇談者
岡山ヤクルト販売株式会社	協賛者
株式会社 チヂキ	協賛者

■事業実施経過

年 月 日	内 容
平成27年2月 1日	第10回岡山市北区京山地区ESDフェスティバル
2月10日	地域の絆プロジェクト企画委員会
3月 1日	地域の絆プロジェクト「だより」発行
3月17日	地域の絆プロジェクト企画委員会
4月12日	地域の絆プロジェクト企画委員会
5月12日	地域の絆プロジェクト企画委員会
6月 9日	地域の絆プロジェクト企画委員会
6月15日	区づくり推進事業 申請打ち合わせ
7月13日	地域の絆プロジェクト企画委員会
7月14日	岡山工業高等学校との懇談
8月 4日	地域の絆プロジェクト企画委員会
8月27日	平成27年度第2期岡山市区づくり推進事業の事業決定通知
9月10日	「やさしく走ろう京山」運動 企画委員会
9月11日	明誠学院訪問、のぼり旗注文
9月14日	平成27年度岡山市京山地区ESD推進協議会役員会
9月15日	補助金等交付申請書、債権者登録申請書、補助金等交付請求書提出
9月15日	岡山商大留学生説明会 午前 (公民館対応)
9月28日	地域の絆プロジェクト企画委員会
9月28日	秋の交通安全運動(9/21~30)行動 (津島中銀前) (京中、明誠学院、商大参加、主催安全パトロール)
9月29日	京山地区地域安全パトロール隊
9月29日	自転車マナー教室 公民館美術工芸室
10月13日	地域の絆プロジェクト企画委員会
10月19日	京山地区地域安全パトロール隊
10月27日	岡山大学と近隣町内会との懇談
11月10日	地域の絆プロジェクト企画委員会
11月16日	京山中学校との懇談 京山地区地域安全パトロール隊
11月19日	第11回岡山市北区京山地区ESDフェスティバル実行委員会①
12月 3日	第11回岡山市北区京山地区ESDフェスティバル実行委員会②
12月 8日	地域の絆プロジェクト企画委員会
12月10日	「やさしく走ろう京山」運動 企画委員会
12月13日	ティーチン岡山 (市民と学生が語り合う場)
12月14日	第11回岡山市北区京山地区ESDフェスティバル実行委員会③
12月21日	京山地区地域安全パトロール隊
平成28年1月15日	第11回岡山市北区京山地区ESDフェスティバル実行委員会④
1月18日	京山地区地域安全パトロール隊
1月28日	第11回岡山市北区京山地区ESDフェスティバル実行委員会⑤
1月30日	第11回岡山市北区京山地区ESDフェスティバル
1月31日	第11回岡山市北区京山地区ESDフェスティバル
2月15日	京山地区地域安全パトロール隊
2月16日	地域の絆プロジェクト企画委員会
2月26日	第11回岡山市北区京山地区ESDフェスティバル実行委員会⑥
3月10日	地域の絆プロジェクト企画委員会
3月28日	京山地区地域安全パトロール隊
3月29日	「やさしく走ろう京山」運動 企画委員会